



内閣府「災害への備え」 コラボレーション事業

ぼうさいこくたい
2023

ぼうさいこくたい2023 にて

賛同いただいた企業の皆様と一緒に

「災害への備え」に向けた パネルディスカッション

を開催しました

企業関係の方・一般の方など

約**70**名の方にご参加いただきました

内閣府主催！9/18 10:30～イベントご案内

「災害への備え」はじめませんか？内閣府と賛同 企業による「災害への備え」に向けたパネルディ スカッションを開催！

主催団体：内閣府（防災担当）「災害への備え」コラボレーション事業 事務局

9/18(水) 10:30 S2-1 都市科学部 101

企業向け、自治体向け、一般向け

100 Year 関東大震災100年 自助・共助 企業防災

内閣府では、国民・家庭・事業所のレベルでの防災意識を高め、日常生活における「災害への備え」を促進するため、民間企業等に内閣府とコラボレーションしていただく事業を実施しています。イベントでは、賛同企業の皆様とパネルディスカッションを行い、国民の皆様へ改めて「災害への備え」を呼び掛けるとともに、企業の皆様へ事業活動の中で「災害への備え」を呼び掛けることの意義を発信していきます。

メッセージ

内閣府では、民間企業とコラボレーションし国民の皆様へ「災害への備え」を呼び掛けています。賛同企業の積極的な取組についてご紹介します。

登壇者紹介



入江 道之

イオン㈱ 総務部長

2020年にイオン㈱総務部長に着任。東日本大震災時には東北エリアの営業再開にむけた応援にも入り「店舗が普段通りに営業していること」が地域もたらす安心感を肌身で感じた。



山口 健太郎

㈱三菱総合研究所 政策・経済センター 研究提言チーフ

2000年に入社以降、被害想定からリスクコミュニケーションに至るまで、幅広く安全に係る政策の立案を支援。2021年より研究提言チーフとしてレジリエンス分野の自社研究の取りまとめを担当。博士（工学）。



鈴木 毅

内閣府 政策統括官（防災担当）付 参事官（地方・調整担当）兼「災害への備え」コラボレーション事業 事務局リーダー
1997年、建設省（国土交通省）に入省。道路公団民営化の法律改正、水害や土砂災害などの危険性を考慮した都市計画制度の検討などを手掛ける。



光畑 由佳

㈱モーハウス 代表

自身の授乳体験から社会と子育てをつなぐ環境づくりのため、授乳室の存在を広げてきた。実践してきた「子連れワークスタイル」も注目され、女性のチャレンジ賞など受賞歴多数。NPO法人子連れスタイル推進協会理事。



兼田 仁

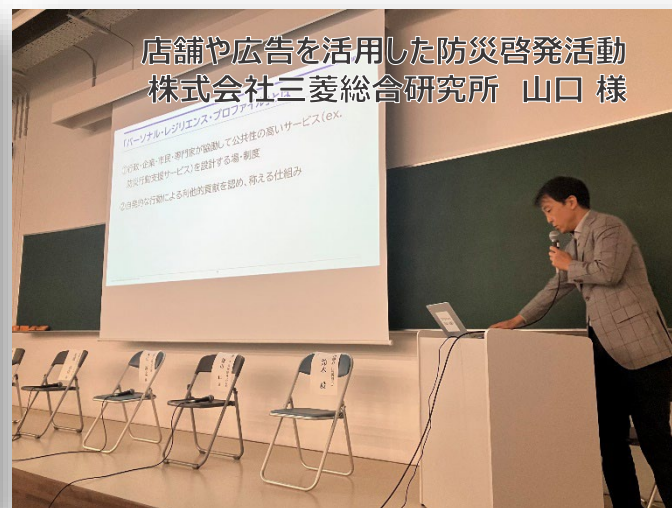
第一生命保険㈱ 総務部 ファシリテーターサービス課長

2001年4月船橋支社入社。その後、主に営業部門と海外部門に在籍。2016年度より総務部にて専任総務運営を担当。2021年度から現職。本社リノベーション、気候変動取組にも注力。

ぼうさいこくたい内閣府セッションより



賛同企業様より活動内容をご紹介いただきました



ぼうさいこくたい内閣府セッションより



パネルディスカッションで多くのご意見をいただきました

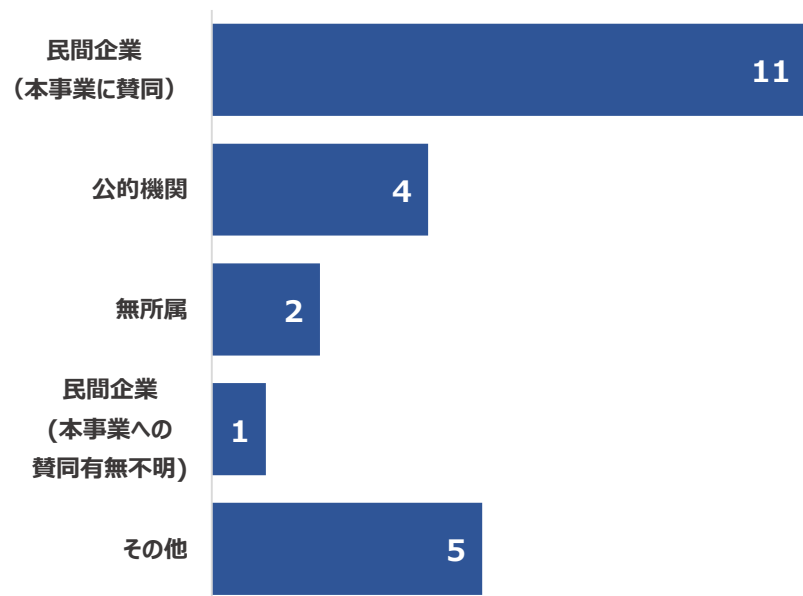
- 住民の防災意識をどう高めていくか？
- 企業の活動における自助・共助を促す防災意識普及の意義とは？

賛同企業様の取組紹介・パンフレット配布スペース

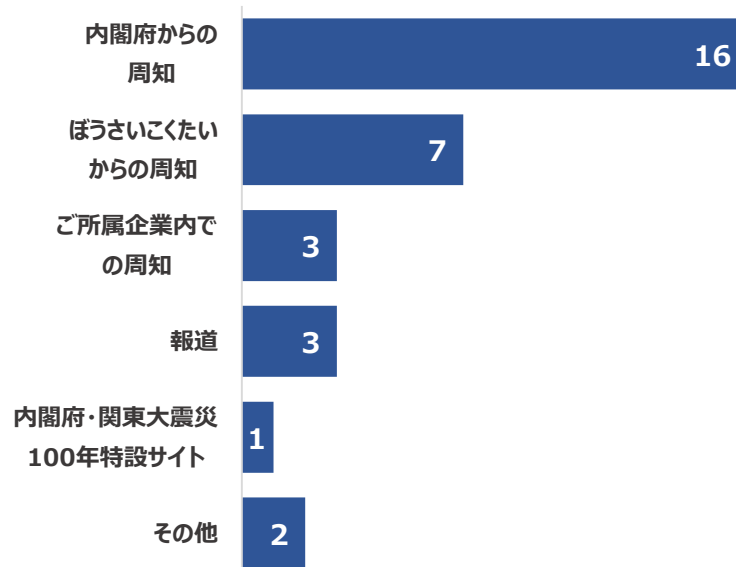


参加者によるアンケート結果

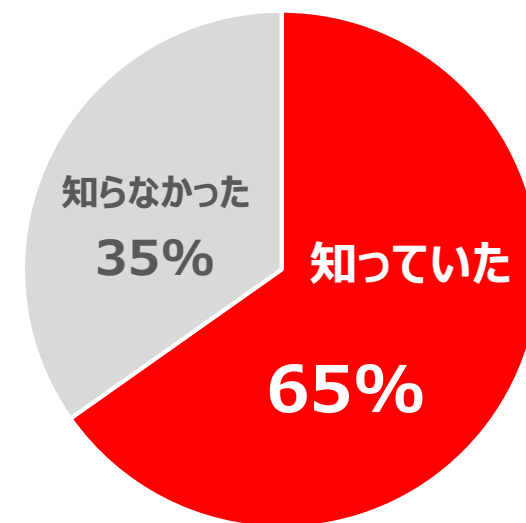
Q ご所属の組織は？



Q 本イベントを知ったきっかけは何ですか？



Q 本事業を知っていましたか？



※回答数：23

Q 本事業をどう思いますか？

アンケートにご協力いただいたすべての方に「良い取組である」と回答いただきました。

- ・期待以上に様々な角度で取り組まれている企業が多いため。
- ・より家庭に近いところでの活動支援となるため。
- ・災害時の避難所あるいは在宅避難のQOL向上に必要であるため。
- ・これまで関わりの少なかった業界とのコラボレーションは面白いと感じるため。
- ・行政と民間企業の連携には説得力と親近感があり、意識を高める効果があるため。
- ・企業が災害への備えを広く周知することは企業業界の方々にもPR可能なため。
- ・共助を企業の貢献で増やすことは持続的な仕組みとなりえるため。

参加者によるアンケート結果

Q 本イベントの中で興味を持った内容を教えてください。

- ・ PRP（パーソナル・レジリエンス・プロフィール）、ライト層への働きかけ。
- ・ 「母乳は防災活動」という視点が素晴らしかった。
- ・ 弱者に対する支援（老人、子供と母親への支援などが大切である）。
- ・ フェイズフリーという考え方に興味を持った。
- ・ 「共助は企業活動の一つである」という考え方。
- ・ 各企業の防災の考え方や取組について興味を持った。
- ・ 異業種の方々の取組・考え方について視点の違いに気づき、参考になった。
- ・ 内閣府様と賛同企業が内外問わず具体的な行事、イベントに取り組んでいる点。

Q 本イベントの感想や気づき、コラボレーション事業についてのご意見を教えてください。

- ・ 住民に近い基礎自治体をどう絡ませていくのか知りたい。
- ・ 防災と構えてしまうと難しく考えがちだが、日常生活の延長でとらえると心理的なハードルも低くなると感じる。
- ・ いかにくそ野を広げるきっかけづくりを工夫するかが大切だと思う。
- ・ 避難所のトイレについても企業のコラボが重要なので、展示など内閣府にコーディネートをすすめてもらいたい。
- ・ 防災意識の向上のためには、普段の生活と接点の多い民間企業とも連携していくことが重要だと思った。
- ・ 個人、家庭、企業、行政機関での食料備蓄を進めることが大切である。
- ・ 民間での備蓄については補助金を付けることも有効ではないかと思う。
- ・ 賛同企業の備えから始まる連携と、発災を想定した連携ができる体制の構築が必要であると思う。
- ・ 当社も賛同しているため、今後、当社ではどのような貢献が可能か意見交換をお願いしたい
- ・ 公共の場での授乳は、非常時よりも通常時こそ必要性を改めて考えさせられた。